

「今こそ、地域の時代」

～地域を担う子どもたちの育ちの支援を地域ぐるみで～

長峰校区青少年育成会

会長 堤 廣 之

次代の地域を担う子どもたちの育成に向けて、長峰校区青少年育成会会長の任を仰せつかり、この一年間活動を推進してきました。

その間、皆様には活動へのご理解とご支援・ご協力いただき、心より感謝申しあげます。

特に本年度は、これまでの活動内容や組織を見直し、「遊び名人大会」「通学合宿」「あいさつ運動」等々新たな取り組みを提案・実施させていただきましたが、関係者の皆様にはご協力・ご迷惑をおかけいたしました事に対しまして、重ねてお礼申しあげますと共に、これも、地域を担う子どもたちの育成のためと、お許しいただければ幸いです。

さて、私たちの青春の応援歌といえば橋幸夫・吉永小百合の「いつでも夢を」という歌を思い起こしますが、同年代の皆さん方は良くご存じだと思います。その歌が、最近NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」で歌われていました。「復興」や「ふるさと」・「夢や希望」等様々な意味を込めた応援歌と感じたのは私だけではないと思います。

東北大震災・北部九州豪雨をはじめとする自然災害、いじめ・ネットラインをはじめとする社会問題等は、今私たちが大切にすべき「ひと・もの・こと」「地域のつながり」の大切さを気づかせてくれています。

そのような中だからこそ、もう一度「ふるさと長峰」の現在・将来を思い起こし、「今なすべきこと」「いま大切にすべきこと」を熟考し、その新たな一步を踏み出すことが大切ではないかと考えます。

私の好きな言葉に、中国の儒学者荀子の次のような言葉があります。

「道、近しといえど 行かざれば 至らず。

事、小なりといえど なさざれば ならず。」

どんな事でも、自分の目で見て、やってみないと分からないし、結果も出て来ません。

私たちが生まれ育った「ふるさと長峰」を、子や孫に、「もっと素敵な長峰」として継承していきたいと思います。

今こそ地域の時代です。そのためにも、みんなで身近な足下にある課題を見つめ、議論をし、私たちに課せられた小さな事を、一つ一つ積み上げていきましょう。